

令和7年3月7日

世田谷区立尾山台中学校

校長 永野 祥夫 様

学校関係者評価委員会

委員長 井上 健

令和6年度 学校関係者評価委員会報告書

はじめに

学校関係者評価は、世田谷区教育委員会が定めた大枠のもと、各学校でそれぞれ特色ある仕方で行われ、学校運営や教育活動の改善に役立てられている。

尾山台中学校の学校関係者評価においては、令和5年度に新たな校長、副校长が着任し、関係者評価委員会の委員長も交代したことから、いま一度基本に立ち返ることとした。すなわち、生徒、保護者、地域住民の皆さんにご協力をいただいた「学校関係者評価アンケート」の結果を丹念に読み解きながら、尾山台中の現状、よいところ、課題などを確認していくことである。令和6年度もそうした基本方針を踏襲しながら、「学校関係者評価アンケート」(量的データ)を整理するとともに、さまざまな形で日頃から学校に関わっている評価委員の意見(質的データ)を加味して、報告書を作成することとした。なお、アンケート結果の数値は、別途、本校のウェブサイトに掲載されているので、あわせてご覧いただきたい。

1 「学校関係者評価アンケート」結果の概要と考察

1-1 生徒からみた尾山台中学校のよさと課題

「学校関係者評価アンケート(生徒)」の構成は、「1学習について」「2生活指導について」「3学校行事(運動会・学芸会・学習発表会・宿泊行事など)について」「4キャリア教育について」「5先生について」「6学校生活全般について」「7部活動について」「8学校独自項目」の8つの領域から構成されている(8以外は全区立中学校で共通)。学校生活や学習に関連してかなり網羅的に質問をしており、質問項目の合計は33に及ぶが、友人関係などについてはたずねていない。その結果からは、生徒たちが学校に対して、概して肯定的な評価をしていることがわかる(「とても」と「思う」の合計)。くわしくは、本校のウェブサイトに掲載された「令和5年度 学校関係者評価アンケート(生徒)」結果を参照のこと)。

ここでは、生徒たちが「とても」と強く肯定した質問項目の特徴をみておきたい。表1は、8領域34項目の質問の「とても」の数値が高い順に10項目をセレクトし、この3年間のデータを時系列で比較できるようにしたものである。

表1 「学校関係者評価アンケート（生徒）」：「とても」が多い10項目（時系列で比較）

質問	令和6年度 n=258				令和5年度 n=257				令和4年度 n=300		
	とても	思う	とても+思う	前回増減	とても	思う	とても+思う	前回増減	とても	思う	とても+思う
1 3-1 学校行事は楽しい	77.6	18.9	96.5	4.2	65.8	26.5	92.3	2.7	65.3	24.3	89.6
2 3-2 学校行事は達成感がある	75.4	21.5	96.9	5.8	61.5	29.6	91.1	0.4	60.7	30.0	90.7
3 6-1 学校生活は楽しい	63.2	30.3	93.5	3.6	53.3	36.6	89.9	2.5	56.7	30.7	87.4
4 3-3 先生は、（学校行事で）生徒の意欲を大切にしている	62.7	31.6	94.3	4.4	47.1	42.8	89.9	2.6	47.3	40.0	87.3
5 7-1 部活動は楽しい	55.7	25.9	81.6	-3.6	54.1	31.1	85.2	7.8	52.7	24.7	77.4
6 8-2 授業では、自分で考える場面がある（令和6年度 新設項目）	55.7	38.2	93.9	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△
7 7-2 部活動は達成感がある	53.9	26.3	80.2	0.8	53.7	25.7	79.4	2.4	53.7	23.3	77.0
8 6-4 私は、塾で学習をしている	53.5	18.9	72.4	5.1	44.7	22.6	67.3	-0.1	55.7	11.7	67.4
9 8-1 タブレットを使った授業に積極的に取り組んでいる	50.9	39.5	90.4	-4.6	54.1	40.9	95.0	1.3	60.7	30.0	93.7
10 1-1 先生は、課題について、自分で考えたりする時間授業の中で取っている	50.0	43.9	93.9	-0.7	47.9	46.7	94.6	3.0	38.3	53.3	91.6

*項目に付された数字（例：3-1）は、学校関係者評価アンケートでの質問項目の番号である。

*「前回増減」とは「とても+思う」の数値が前回調査と比較して、何ポイント増減しているかを示している。

表1には、生徒たちの「尾山台中の学校生活への評価」が端的に示されている。「とても」という回答がもっとも多かったのは「3-1 学校行事は楽しい」で 77.6%（昨年度は 65.8%）、2番目は「3-2 学校行事は達成感がある」で 75.4%（昨年度は 61.5%）、3番目は「6-1 学校生活は楽しい」の 63.2%（昨年度は 53.3%）であった。これらの項目への満足度は、昨年度よりも「とても」の数値で 10 ポイントも高まっていることは特筆されよう。そうした高い満足度の背景には、「3-3 先生は、（学校行事で）生徒の意欲を大切にしている」ことがあることも、ほとんどの生徒は理解できているようだ（「とても+思う」 94.3%）。「7-1 部活動は楽しい」、「7-2 部活動は達成感がある」でも「とても」の回答は半数を超えており、単に「楽しい」だけではなく、「達成感」を得られていることが重要であろう。

では、学習面はどうであろうか。近年、学校では「主体的な学び」「ICT の活用」に特に力を入れているようであるが、「8-2 授業では、自分で考える場面がある（令和6年度 新設項目）」、「8-1 タブレットを使った授業に積極的に取り組んでいる」、「1-1 先生は、課題について、自分で考えたりする時間授業の中で取っている」では、項目では「とても」が 5 割、「とても+思う」で 9 割となっており、生徒たちがどんな学習に力をいれているかが伝わってくる。他方で、「6-4 私は、塾で学習をしている」でも「とても」は半数を超えており、「とても+思う」が 7 割に達している。学校と塾との「学習」にどのような違いがあるのか、気になるところである。

次の表2は、表1と同じ10項目について、「学年による差」をみようとしたものである。すると、「3-1 学校行事は楽しい」「3-2 学校行事は達成感がある」「3-1 学校生活は楽しい」「7-1 部活動は楽しい」「7-2 部活動は達成感がある」など、学校生活の充実度を示す項目について、2年生の肯定度が高いことがわかる。とりわけ、「3-1 学校生活は楽しい」「8-2 授業では、自分で考える場面がある」では、2年生の「とても」の数値が、3年生よりも10ポイント、1年生よりも20ポイント高いことが示されている。「中だるみ」などと言われることも多い中学2年生の学校生活への満足度が高いことは素晴らしいことであるが、1年生も3年生も、学年に応じたワクワク感がある学校であってほしいと願わざにはいられない。

学習面では、「6-4 私は塾で勉強している」は学年が進むにつれて数値が高くなっている、1年生の「とても」は40.3%あったが、3年生で65.6%となる。他方で、「8-2 授業では、自分で考える場面がある」「1-1 先生は、課題について、自分で考えたりする時間を授業の中で取っている」は、3年生は2年生よりも「とても」の数値が10ポイント程度低くなっている。

「8-1 タブレットを使った授業に積極的に取り組んでいる」でも、3年生は2年生よりも「とても」の数値は若干低くなっている。学校での勉強に意欲をなくしたり、理解度が低下している生徒が増えてはいないか、気になるデータである。先生方がこうした調査結果をどのように捉えているのか、お聞きしたいと思う。

表2「学校関係者評価アンケート（生徒）」：「とても」が多い10項目を学年で比較

令和6年度		1年 n=67			2年 n=98			3年 n=96			3年と1年の差	
質問		とても	思う	とても+思う	とても	思う	とても+思う	とても	思う	とても+思う	とても	とても+思う
1	3-1 学校行事は楽しい	76.1	19.4	95.5	80.0	16.9	96.9	77.1	19.8	96.9	1.0	1.4
2	3-2 学校行事は達成感がある	68.7	25.4	94.1	80.0	18.5	98.5	77.1	20.8	97.9	8.4	3.8
3	6-1 学校生活は楽しい	52.2	38.8	91.0	73.8	21.5	95.3	63.5	30.2	93.7	11.3	2.7
4	3-3 先生は、(学校行事で)生徒の意欲を大切にしている	47.8	43.3	91.1	69.2	26.2	95.4	68.8	27.1	95.9	21.0	4.8
5	7-1 部活動は楽しい	53.7	31.3	85.0	60.0	20.0	80.0	54.2	26.0	80.2	0.5	-4.8
6	8-2 授業では、自分で考える場面がある(令和6年度 新設項目)	44.8	41.8	86.6	66.2	30.8	97.0	56.3	40.6	96.9	11.5	10.3
7	7-2 部活動は達成感がある	55.2	22.4	77.6	60.0	20.0	80.0	49.0	33.3	82.3	-6.2	4.7
8	6-4 私は、塾で学習をしている	40.3	19.4	59.7	49.2	13.8	63.0	65.6	21.9	87.5	25.3	27.8
9	8-1 タブレットを使った授業に積極的に取り組んでいる	38.8	40.3	79.1	56.9	35.4	92.3	55.2	41.7	96.9	16.4	17.8
10	1-1 先生は、課題について、自分で考えたりする時間を授業の中で取っている	47.8	43.3	91.1	56.9	38.5	95.4	46.9	47.9	94.8	-0.9	3.7

1 - 2 保護者からみた尾山台中学校のよさと課題

次に、「学校関係者評価アンケート（保護者）」の結果をみてみよう。質問の構成は、「1 学習について」「2 生活指導について」「3 学校行事（運動会・学芸会・学習発表会・宿泊行事など）について」「4 キャリア教育について」「5 教職員について」「6（学校）生活全般について」「7 部活動について」「8 学校からの情報提供について」「9 学校運営について」「10 家庭と学

校の連携について」「11 地域との連携について」「12 学校の安全性について」「13 学校独自項目について」の 13 の領域から構成されている。質問は全体で 47 項目と詳細であり、1 から 7 までは生徒用の質問と同様の観点から学校の教育活動について評価を求め、8、9 では保護者の目に映った学校運営のあり方を、また、10 では保護者自身の学校の教育活動への理解度や参加のあり方をたずねていることが特徴である（本校のウェブサイトに掲載された「令和 6 年度 学校関係者評価アンケート（保護者）」結果も参照のこと）。

表 3 に整理したように、学校の教育活動について最も肯定的な回答が多かったのは、「3-1 学校行事は、子どもにとって楽しい」（「とても」59.5%）で、2 番目は「3-2 学校行事は、子どもにとって達成感がある」（「とても」52.3%）であった。この 2 項目は、「思う」を加えると 95% に達する。部活動に対する評価も高く、「7-2 部活動は、子どもにとって達成感がある」（「とても」41.4%）、「7-1 部活動は、子どもにとって楽しい」（「とても」36.0%）は、「思う」を加えると 8 割が肯定しており、表 1 で生徒のアンケート結果をみたが、学校行事、部活動への高い評価は、親子で一致していることが特筆される。

また、「8-4 本校は、学校公開や保護者会などで、生徒の様子がわかる」では「とても」と「思う」をあわせると 9 割に達しており、保護者たちの学校への関心度が示されている。そして、「6-1 本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」「3-3 本校は、子どもの意欲を大切にしている」「6-2 本校の学校生活は、子どもにとって達成感がある」に「とても」と回答した保護者は 2~3 割、「思う」を含めると 8 割から 9 割近くになり、保護者から尾山台中学校の教育活動が高く評価されていることがわかるデータと言えよう。

表 3 「学校関係者評価アンケート（保護者）」：「とても」が多い 8 項目（時系列で比較）

質問	令和 6 年度 n=111				令和 5 年度 n=121				令和 4 年度 n=121		
	とても	思う	とても +思う	前回 増減	とても	思う	とても +思う	前回 増減	とても	思う	とても +思う
1 3-1 学校行事は、子どもにとって楽しい。	59.5	36.0	95.5	-0.9	53.0	43.4	96.4	6.3	48.8	41.3	90.1
2 3-2 学校行事は、子どもにとって達成感がある	52.3	43.2	95.5	2.7	53.0	39.8	92.8	-0.5	54.5	38.8	93.3
3 7-2 部活動は、子どもにとって達成感がある	41.4	36.9	78.3	0.0	48.2	30.1	78.3	4.0	42.1	32.2	74.3
4 7-1 部活動は、子どもにとって楽しい	36.0	44.1	80.1	0.6	42.2	37.3	79.5	2.6	39.7	37.2	76.9
5 6-1 本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。	34.2	54.1	88.3	5.2	33.7	49.4	83.1	-5.3	33.9	54.5	88.4
6 3-3 本校は、子どもの意欲を大切にしている	32.4	45.0	77.4	-6.9	32.5	51.8	84.3	2.5	27.3	54.5	81.8
7 8-4 本校は、学校公開や保護者会などで、生徒の様子がわかる	25.2	64.0	89.2	3.6	20.5	65.1	85.6	10.4	18.2	57.0	75.2
8 6-2 本校の学校生活は、子どもにとって達成感がある。	24.3	53.2	77.5	1.6	25.3	50.6	75.9	-1.0	24.0	52.9	76.9

他方で、気になる点も存在する。表 4 は、「8 学校からの情報提供」「9 学校運営」「10 家庭と学校の連携」についてたずねた結果の一部をピックアップしたものである。

まず、「8 学校からの情報提供」についてであるが「8-1 本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」で「とても」という回答は 23.4%、「8-2 本校はホームページやメールなどで、本校は、保護者に情報を提供している」では 18.9% にとどまっている。「思う」

を加えると肯定する割合は8割に達するものの、令和4年度の水準を回復できているとはいえないのではないか。

次に、「9学校運営」についてであるが、「9-1本校は、保護者に指導の重点を伝えている」について、「とても」という回答が1割以下であるのは少ないと言わざるを得ない。「9-2本校は、教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる」についても「とても」という回答は12.6%である。これは、「教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいない」と保護者が判断していると言うよりは、そもそも「本校の指導の重点」がよくわからないので、「教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいるかどうか」については評価できない状況にあると解釈すべきであろう。そのことは、「10-3私は、今年度の学校の指導の重点を理解している」に「とても」と自信を持って回答している保護者は、わずか2.7%であることに示されている。昨年度、この項目の「とても」の数値は6.0%であったが、それをさらに下回ってしまっている。

そうした「情報提供の不足」は、保護者の学校公開や各種の学校行事、PTA活動へ参加する気持ちを萎えさせてしまっているのかもしれません、心配である。「10-1私は、学校公開にすすんで参加している」で「とても」は13.5%、「10-2私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している」では11.7%にとどまり、昨年度よりもさらに減少している。

表4 「学校関係者評価アンケート（保護者）」：気になるデータ（時系列で比較）

質問	令和6年度 n=111				令和5年度 n=121				令和4年度 n=121		
	とても	思う	とても+思う	前回増減	とても	思う	とても+思う	前回増減	とても	思う	とても+思う
8-1 本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している	23.4	62.2	85.6	0.1	24.1	61.4	85.5	-4.6	30.6	59.5	90.1
8-2 本校はホームページやメールなどで、本校は、保護者に情報を提供している	18.9	61.3	80.2	6.7	15.7	57.8	73.5	-15.8	29.8	59.5	89.3
9-1 本校は、保護者に指導の重点を伝えている	9.9	55.0	64.9	-3.7	12.0	56.6	68.6	5.6	14.0	49.0	63.0
9-2 本校は、教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる	12.6	53.2	65.8	-5.3	18.1	53.0	71.1	6.7	9.9	54.5	64.4
10-1 私は、学校公開にすすんで参加している	13.5	50.5	64.0	14.6	16.9	32.5	49.4	-9.3	12.4	46.3	58.7
10-2 私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している	11.7	50.5	62.2	5.5	15.7	41.0	56.7	-13.6	12.4	57.9	70.3
10-3 私は、今年度の学校の指導の重点を理解している	2.7	45.0	47.7	-6.5	6.0	48.2	54.2	0.4	5.0	48.8	53.8

以上のことから、来年度に向けた改善策として、「学校の指導の重点」の「説明のあり方」について早急に点検し、実行することを強く求めたい。それなくしては、保護者の学校の教育活動への理解を深め、学校行事やPTA活動等へのさらなる参加を求めるることは難しいのではないか。

1－3 地域住民からみた尾山台中学校のよさと課題

最後に、「学校関係者評価アンケート（地域）」についてみていく。質問の構成は、「1生活指導について」「2学校行事（運動会・学芸会・学習発表会・宿泊行事など）について」「3

学校からの情報提供について」「4 学校運営について」「5 地域との連携について」「6 学校の安全性について」「7 学校独自校項目」の 7 領域から構成され、項目数は 18 である（くわしくは、本校のウェブサイトに掲載された「令和 5 年度 学校関係者評価アンケート（地域）」結果を参照のこと）。

「学校関係者評価アンケート（地域）」の結果から、「3 学校からの情報提供」「4 学校運営」「5 地域との連携」をピックアップし、経年比較をできるように整理したのが表 5 である。なお、今年度はサンプル数が大幅に増えていることが特徴である（n=54）。

表 5 「学校関係者評価アンケート（地域住民）」：気になるデータ（時系列で比較）

質問	令和 6 年度 n=54				令和 5 年度 n=16				令和 4 年度 n=16		
	とても	思う	とても + 思う	前回 増減	とても	思う	とても + 思う	前回 増減	とても	思う	とても + 思う
3-1 学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子がわかる	36.4	61.4	97.8	-2.2	50.0	50.0	100.0	-0.1	31.3	68.7	100.0
3-2「学び舎」の活動について、情報が提供されている	15.9	56.8	72.7	22.7	12.5	37.5	50.0	-43.8	25.0	68.8	93.8
4-1 学校の重点目標が明確である	20.5	68.2	88.7	26.2	12.5	50.0	62.5	-25.0	25.0	62.5	87.5
4-2 地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している	20.5	54.5	75.0	-12.5	12.5	75.0	87.5	24.9	18.8	43.8	62.6
5-1 地域の人や施設を教育活動に生かしている	18.2	59.1	77.3	-22.7	12.5	87.5	100.0	12.5	37.5	50.0	87.5
5-2 学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている	9.1	45.5	54.6	4.6	0.0	50.0	50.0	-18.8	18.8	50.0	68.8
5-3 学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている	6.8	50.0	56.8	19.3	0.0	37.5	37.5	-18.8	18.8	37.5	56.3

まず、「3 学校からの情報提供」であるが、「3-1 学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子がわかる」では、「とても」が 36.4%、「3-2「学び舎」の活動について、情報が提供されている」では 15.9% であり、まだまだ十分とは言えない。

「4 学校運営」に関連する「4-1 学校の重点目標が明確である」「4-2 地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している」は、「とても」は 2 割であるが、「思う」を加えると 8 割から 9 割となり、地域住民から一定の評価が得られているようである。

「5 地域との連携」については、「5-1 地域の人や施設を教育活動に生かしている」では、「とても」は 18.2% であるものの、「思う」を加えると 77.3% となる。しかしながら、「5-2 学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」「5-3 学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」については、「とても」は 10% 以下であり、「思う」を加えても肯定的な回答は半数程度である。学校協議会や学校運営委員会はさまざまな活動をしているはずであるが、その活動が地域にあまり知られていないことがデータから感じられる。そうだとすれば、

「3-1 学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子がわかる」「4-1 学校の重点目標が明確である」において、「とても」「思う」と回答していても、地域住民が理解は表面的なものにとどまってしまっているかもしれない。昨年度の報告書でも指摘したことであるが、尾山台中学校が「コミュニティ・スクール」として何をめざし、どのような活動をしていくのか、関係者で熟議をしながら共通理解を深めいくことが重要であろう。

2 関係者評価委員によるコメント

【A 委員のコメント】

1. アンケート結果の分析

◇保護者への問い合わせ “本校は、子どもの進路や将来のことについて考える授業がある”の分析

保護者は子どもとのコミュニケーションが十分取れていないため、学校での授業内容を把握しきれていない可能性がある。また、今年度は1年生向けに進路や将来について考える授業が行われていない点が影響し、1年生の保護者からの評価が低くなっていると考えられる。

◇保護者への問い合わせ “自分の子どもは、タブレットを使った授業に積極的に取り組んでいる”の分析

小学校と中学校でのタブレットの使用方法に違いがあることや、タブレットを使用した授業の進め方に対する戸惑いにつながっている可能性がある。特に1年生の保護者からの評価が低い。

◇保護者への問い合わせ “自分の子どもは、教科の授業や総合的な学習の時間を通して、自分の将来について考えている”の分析

子ども自身は進路についてある程度考えているものの、保護者に伝わっていない可能性がある。また、1年生では保護者側も「進路決定はまだ先だから」と深く話し合うことを控えているのか評価の低さにつながっていると考えられる。

2. 学校の課題：キャリア教育について

授業の目的が生徒に十分伝わっておらず、「将来について考える」「自分に何が向いているのかを知る」といった自己分析の機会がわかりやすく提供されていない可能性がある。

単純作業が得意な人、一から創造するのは苦手だがブラッシュアップが得意な人、サポート業務に向いている人など、様々な適性を認識できる機会をさらに作る事を提案します。

「キッザニア」のような誰もが知っている職業だけでなく、社会には多様な仕事があることを子どもたちに伝えることも重要。

【B 委員のコメント】

1. アンケート概要

本アンケートは、尾山台中学校に関する保護者の意見を集約し、学校の良い点や課題を明確にするために実施されました。調査は12の主要領域と、今回新たに追加された3つの項目を含む計13領域47項目について行われました。

2. 学校行事・部活動について

学校行事に関する評価は高く、

「学校行事は子どもにとって楽しい」→95.5%

「学校行事は子どもにとって達成感がある」→95.5%

また、部活動についても高い評価を得ており、

「部活動は楽しい」→80.1%

「部活動に達成感がある」→ 78.3%

この結果から、体育祭・合唱コンクール・球技大会などの学校行事がクラスの団結力を高め、保護者・生徒ともに満足度が高いことがわかります。

3. キャリア教育について

キャリア教育に関する評価は減少傾向にあり、

「キャリア・パスポートの目標について考える指導をしている」→ 65.8% (前年比-6.5%)

「進路や将来について考える授業がある」→ 62.2% (前年比-10.1%)

「進路や仕事に関する情報提供をしている」→ 64.0% (前年比-2.2%)

職業体験の機会はあるものの、より多様な職種の紹介が必要であると考えられます。

4. 先生・学校運営について

「先生に相談しやすいか」という項目では、

1年生保護者 56.7% → 2年生保護者 73.7% → 3年生保護者 91.6%

と、学年が上がるごとに評価が向上しており、特に進路相談時の対応に満足している保護者が多いことが分かります。

5. 保護者の懸念と課題

近年、制服の着こなしの乱れ、夜間の外出、生徒間のトラブルなどの問題が増加しているとの声が寄せられました。また、保護者が参加する行事での生徒の態度の悪さについての指摘もあり、学校への信頼が低下していることが懸念されます。このため、一部の保護者が他の学校への進学を検討する動きも見られます。

6. 今後の改善提案

次のようなことに取り組まれることを提案いたします。

「キャリア教育を充実させる」「多様な職種を紹介する機会を増やす」「外部講師の招致や企業との連携の強化」「生活指導の強化」「制服の着こなしや生活態度に関する指導の徹底」「地域と連携し、適切な生活習慣の啓発」「学校・地域・保護者の連携強化」「保護者参加型のイベントを増やし、学校への理解を深める」「地域住民と協力し、安心できる学校環境を構築する」

7.まとめ

尾山台中学校は、学校行事や部活動について高い評価を得ており、多くの生徒・保護者が満足しています。一方で、キャリア教育や生活指導においては改善の余地があり、今後の取り組みが求められます。地域・保護者・学校が一体となり、より良い教育環境を構築していくことが重要と考えます。

【C 委員のコメント】

1. はじめに

尾山台中学校に関する保護者の意見をまとめたアンケート結果をもとに、本報告書を作成しました。アンケートでは、学校生活全般について 13 領域 47 項目にわたる質問が行われ、学校行事、部活動、キャリア教育、教員の対応、成績評価などに関する意見が収集されました。

2. アンケート結果の概要

(1) 学校行事・部活動について

学校行事に関する質問「学校行事は子どもにとって楽しい」「学校行事は子どもにとって達成感がある」に対し、「とても・思う」と回答した保護者の割合はそれぞれ 95.5% と高い数値を示しました。また、生徒の回答も「とても・思う」が 95.5%（楽しい）、94.1%（達成感がある）と高く、体育祭・合唱コンクール・球技大会といった主要行事がクラスの団結力を高めることが示唆されます。

部活動に関しては、「部活動は子どもにとって楽しい」と回答した保護者が 80.1%（前年比-6.2%）、「部活動は達成感がある」と回答した保護者が 78.3%（前年比-6.8%）と、前年より若干低下しましたが、依然として高い評価を得ています。生徒の回答も 81.6%、80.2% と同様の傾向を示しています。

(2) キャリア教育について

キャリア教育に関する質問では、「キャリア・パスポートの目標について考えさせる指導をしている」と回答した保護者が 65.8%（前年比-6.5%）、「進路や将来のことについて考える授業がある」と回答した保護者が 62.2%（前年比-10.1%）と、すべての項目で前年より減少傾向にあります。職業体験を行っているものの、業種の幅が限られているため、より専門的な職業への興味を喚起する機会の提供が求められています。

(3) 教員の対応について

「本校は子どもや保護者が相談しやすい」との質問に「とても・思う」と答えた保護者は 71.9%（前年比-1.6%）でした。学年別に見ると、一年生保護者が 56.7%、二年生保護者が 73.7%、三年生保護者が 91.6% と、学年が上がるにつれて相談しやすさを感じる傾向が見られます。これは、教員が長期的に生徒を指導し、三年生時の進路相談に際してより信頼関係が築かれるためと考えられます。

(4) 地域との連携について

「地域との連携」に関する評価は他の項目に比べて低く、共感が得られた割合が半数程度にとどまりました。学校公開や地域ボランティア活動への認知度が低いことが一因と考えられ、地域住民への周知を強化することが求められます。

(5) 成績評価について

アンケートでは成績評価に関する質問は含まれていませんが、保護者からの意見として、成績評価の透明性や公平性について懸念が示されました。具体的には、「90 点以上を 2 回獲得しても最終評価が 3 以下だった事例」「カンニングが発覚した生徒の得点が最低点ではなく平均点として評価された事例」「体育の成績で女子生徒のほうが高評価を受ける傾向があるという指摘」などが挙げられました。成績評価は生徒の学習意欲や進学に大きく影響するため、保護者や生徒の納得感を向上させるための工夫が求められます。

3. 保護者の意見と課題

近年、新入生の服装の乱れが目立ち、商店街での自転車利用や夜遅い時間の外出などが増えているとの指摘がありました。また、いじめとも取れるような生徒間のトラブルが報告されるなど、生活指導の強化が必要とされています。

さらに、「学習指導」「生活指導」「教員の対応」「学校運営」「学校の安全性」に関する質問の

「とても・思う」と答えた保護者の割合が減少傾向にあることから、学校への信頼感が低下している可能性が示唆されます。

4. まとめと提言

本アンケートの結果を踏まえ、以下の点が今後の課題として挙げられます。

- ・キャリア教育の充実

より多様な職業体験の機会を提供する。進路指導の充実を図り、生徒の将来設計を支援する。

- ・地域との連携強化

学校公開や地域イベントへの参加を促進し、地域との交流を深める。

- ・成績評価の透明性向上

成績評価基準の明確化を図り、保護者・生徒への説明を強化する。成績評価に関するフィードバックの場を設ける。

- ・生活指導の強化

制服の着用指導や校外でのマナー指導を徹底する。

いじめ防止策を強化し、生徒が安心して通学できる環境を整える。

尾山台中学校は、地域と共に子どもを育てる環境に恵まれています。今後も学校・地域・保護者が一体となり、より良い教育環境の実現に向けて協力していくことが望まれます。

【D 委員のコメント】

1. アンケート結果の概要

アンケート結果によると、「学校行事」に関する項目のうち「学校行事は楽しい」「学校行事は達成感がある」の2項目が96%以上の高評価を示し、前年（R5・R4）と比較しても上昇傾向にあることが分かりました。体育祭や合唱コンクールにおいて、生徒が一生懸命に取り組む姿が見られ、保護者からも感動の声が多く寄せられました。今後も生徒が全力を注げるような学校行事の継続が求められます。

また、「学び舎の小学校との交流機会」に関する項目が前年比+10.4と最も大きく上昇しました。これまで年1回であった「小学生の中学校体験」が2回実施される計画があることから、尾山台中学校の魅力を小学生に伝える機会が増えることが期待されます。一方で、小中合同のユニセフ募金が中止となった点については、今後の復活が望まれるとの意見がありました。

さらに、「先生たちは生徒が相談しやすい」という項目も前年比+8.6と改善が見られました。学年別では1年生80.6%、2年生78.5%、3年生86.5%となり、特に3年生で高い評価を得ています。思春期の生徒にとって、保護者以外にも相談できる大人が身近にいることは大きな安心感につながると考えられます。

2. よさと課題

34の質問項目のうち、「とても・思う」の合計が80%以上の項目は24ありました。特に「学習指導」「生活指導」「学校行事」「先生」「部活動」の分野では、全ての項目が80%以上

となり、多くの生徒が学校生活に満足していることが分かりました。この良好な状況を継続していくことが重要です。

一方で、「キャリア教育」の「自分の進路や将来の仕事について考える授業がある」という項目が前年比-9.4と大きく低下しました。特に1年生の評価が低く(46.3%)、3年生でも「とても」の評価が38.5%にとどまっています。高校受験に関する授業を1年生の段階から計画的に実施し、生徒が興味を持ちやすい内容に工夫することで、評価の向上が期待されます。

また、保護者からは「高校受験・進路に関する説明会を増やしてほしい」という要望が寄せられています。兄姉や卒業生が身近にいない保護者にとって、最新の高校受験情報を得る機会は限られているため、学年を問わず公平に情報を提供する機会の拡充が望まれます。特に平日午後や夕方の参加が難しい家庭もあるため、より多くの保護者が参加しやすい方法の検討が必要です。

近年は中学受験を選択する家庭が増え、尾山台中学校へ進学する小学生の数が減少しているとの指摘もあります。尾山台中学校の進路指導の充実や評価制度の明確化により、「努力次第で結果が出せる学校」という認識を広めることで、進学者の増加につながる可能性があります。

3. 今後の期待

今回のアンケート結果から、多くの生徒が学校生活に満足していることが明らかとなりました。一方で、一部の課題については改善が必要です。特にキャリア教育の充実や進路指導の強化を図ることで、さらに魅力ある学校づくりが可能となります。

学校の魅力が向上すれば、生徒・保護者からの評価も高まり、良い評判が広がることで、尾山台中学校の進学希望者の増加や学校全体の活気の向上が期待されます。今後の学校運営において、これらの課題への対応を進めることが求められます。

【E 委員のコメント】

1. 現状分析

学習指導、生活指導、学校行事、教職員の関わりについて、「とても良い」と評価する割合が前年度(R4)から大きく伸びています。「良い」との合計割合も90%前後を示しており、生徒への教職員の寄り添いがしっかりと機能している様子が伺えます。

一方で、キャリアデザイン教育および「翠と渓の学び舎」における幼小中の連携が希薄になっている点が課題として挙げられます。特に、小学生が尾山台中学校への進学を魅力的に感じるための情報発信が不足していると考えられます。私立中学校とは異なる公立教育の特色として、多様な生徒が集まり協調性や規範意識を育む場であることを、より明確にアピールする必要があると感じられます。

2. 長所と課題

生徒たちは合唱コンクールや体育祭といった学校行事に積極的に参加しており、その姿勢は非常に素晴らしいものです。また、それに寄り添う教職員の姿勢も評価に値します。(ご尽力いただきありがとうございます。)

今後の課題としては、生徒が「おや中」を単なる通過点ではなく、「将来自分は何を目指す

のか」を考える場と捉えられるような工夫が求められます。キャリア形成の視点を取り入れた魅力づくりを進めることで、より充実した学校生活の提供につながるを考えます。